

特定非営利活動法人いigoサポーターズクラブ

理事会議事録

1. 開催日時:平成 22 年 9 月 14 日(火)19 時-21 時
2. 開催場所:温 cafe 福島市飯坂町字湯沢 26 番地
3. 出席者:理事 11 名のうち出席者 6 名 (以下、敬称略)  
理事:藤原純、小野寺一、大山弘明、川又康彦、木戸康司、佐藤耕平  
事務局職員:古山郁  
合わせて7名。
4. 審議事項 ※文中、当法人をクラブと略
  - (1) 議事録署名人と書記の任命(議長 藤原理事長)  
議事録署名人を小野寺一、木戸康司理事の 2 名、書記を事務局職員である古山郁に、任命した。
  - (2) 各事業進捗状況報告(①②③は佐藤耕平理事から。④⑤⑥⑦は藤原理事長から)
    - ① 県北方部アクティブツーリズム事業について  
○地域のがっこう(人材育成事業)
      - ・飯坂校は 7 月 24 日、25 日(土、日)連続で開催し、終了。  
参加人数、講師方、実施目的等の説明の他、「参加者 7 名と少なかったのが課題。務めて広報を行った結果だけに、難しさを感じた」との感想。  
加えて「反面、成果も。情報発信を具体的に考える参加者からパソコン教室の開催要望や地域記者としての登録などもあり、今後対応したい」。
      - ・桑折校 座学編は 9 月 11 日(土)に終了。  
「桑折町の協力を得、目標人数には届かなかったものの 29 名の参加を得て盛況」。  
なお、10 月 9 日(土)に開催を予定している体験編は、飯坂着を 15:30~16:00 くらいに出来るようプログラムを検討中。  
(会場の花乃湯旅館さんから「土曜日の日帰り入浴は宿泊客と重ねたくない」との要望による。)
    - モニターツアー(プログラム創出、検証事業)
      - ・事業報告書が回覧され、「8 月 1 日、2 日(日、月)に実施した報告書をクラブ ML にブリーフケースで掲載。ご一読を」。
      - ・11 月 28 日~29 日(日月)で秋のモニターツアーを実施。  
本日(14 日)「ふくしまファンクラブ」会報誌へのオリコミを行った。
  - ② コラボ☆ふくしま(福島市との協働事業)について
    - ・9 月 19 日(日)オリエンテーションからスタート。
    - ・参加予定人数(30 名)が約半分程度になる状況
    - ・上記オリエン時は、その日だけの見学も可としたこと

- ③ 福島北高の活動(「好い食・飯坂・良い笑顔」)に対する後見役について  
9月18日(土)大鳥幼稚園運動会での試食会への協力  
当日の昼前後に「花の湯旅館さんのマイクロバスで高校への送り迎えだけのサポートになる予定」。

<質疑応答> ①～③に関しては特になし。

- ④ NPO 法人団塊のノープレス・オブリージュ(以下、DNO)  
および武蔵野美術大学齋藤啓子@視覚伝達デザイン科教授ゼミについて  
○NPO 法人団塊のノープレス・オブリージュ(以下、DNO)との森林プロジェクト
- ・現在はモデル事業への取り組みに向けた準備段階であること  
DNO が提案している CO2 ダム事業や企業の森事業がきっかけになっているもの、クラブはあくまで「着地型観光」を念頭におきながら、森林体験プログラムやカーボンオフセットなど取り組みのフィールドワーク候補地として飯坂町の大作山を考えたい。
  - ・県や市、地元の飯坂町財産区や茂庭、県北の森林関連組織などをオブザーバーとしてまずは8月30日に勉強会を開催。事業モデル地区として大作山の活用について、今後も研究や協議を重ねる予定
  - ・県も模索状態(候補地として茂庭や鳩峰峠も)のようで、具体的な候補地や取り組み組織が県北方部にはないのが現状
  - ・まもなく茂庭の古民家をDNOが1棟借り、長期滞在など会員向けサービスとして活用を始める。  
11月を目標に、クラブとしてこの森林事業と古民家の利用に関して、かつビジネスモデル創出の可能性について、絞り込んだ協議をDNOと行いたいと考えている。
- 武蔵野美術大学齋藤啓子@視覚伝達デザイン科教授ゼミ  
「今回の齋藤教授とゼミ生の訪問は、まずは視察と考えて欲しい。クラブと同大学との連携はスタートしたばかりで、5年以上といった長いスパンで取り組むものだと考えているし、そう捉えて欲しい。
- ⑤ 映画+湯けむりシンポジウム in 飯坂(仮称)への取り組みについて
- ・タイトルを再考。広域をターゲットにしたいので、飯坂に拘らず福島市開催を検討したい。
  - ・福島市観光課の支援、協力を求め市、市教育委員会などへの名義後援の獲得とチケットの販売協力を呼びかけたい。かつ会場は福島テルサを第1候補に、市の減免を得られないか働きかける。

・「ぴあ」や「グーテン」などマス媒体へのアプローチ、販売委託も検討できないか。

(川又理事から)

・「民報厚生文化大賞」※など助成金獲得も視野に入れ、財政的な安定を図りたい。

※この募集は9月10日で既に締切。(事務局)

<決議> 今後、開催要項の企画や広報活動など課題は多いが、この事業に取り組むことに対しご承認いただきたい→異議なし。

決議を受けて検討された主な確認事項、意見など(以下に列記)

- ・フィルムコミッション+地域再生をテーマとすること
- ・県北西部北部のこれに関心の高い自治体、組織などとのネットワークづくりを目指すこと(ただし、県観光物産協会はアウト)
- ・少しでも経費負担を軽くするため、パネルディスカッションのゲストは県内から。コーディネーターはシネマとうほく社長にしてはどうか。
- ・会場候補になっている福島テルサの収容人数が400人程度なので、映画を2回上映することはできないか。その可能性を探りたい。  
(シンポ+映画、映画のみでも1200円。)

⑥ 来年度の事業計画および人事について(藤原理事長から)

○県地域サポート事業などの補助金制度を利用し、職員の確保を行う

- ・経理担当はパートでの勤務、事業担当者は常勤2名を予定したい。
- ・上記以外にも、厚生労働省や内閣府の地方の元気再生事業など相応しい補助金がないか早急に検討する。

○「地域創造プロデューサー養成講座」(藤原理事長が受講中)を活かし、新しい取り組みを目指す

- ・講座の内容を「伝える場」として約90分程度で一度セッティングしたい。
- ・プログラムを商品化するための仕組みを創りたい。  
法的なことや観光圏の特例措置、規制緩和などさまざまなことを学び、情報も得たので、8月の研修先「稲取温泉」の事例も参考にしながら、クラブ会員を中心に「達人」登録制度を。飯坂町内へも呼びかけ(全戸配布の募集)、地域にお金を落としてもらい仕組みづくりや、旅館への販売も考えたい。
- ・「達人」を地域住民に呼びかけるのは、クラブへの入会促進も図るため。  
また、クラブHP、地域記者ブログ、ティー・ゲートなどへも掲載。PRを図る。
- ・地元の旅行会社との連携を深めるため、今週、ヒットトラベルに挨拶に行く予定。
- ・体験プログラムなどを紹介するガイドセンターを温 cafe に設置し、活動できないか検討したい。(カウンターと椅子の準備も)

<質疑応答>

まだ稼働していないのに(ガイドセンター)スタッフを1人貼り付けるのは時期尚早で

はないか。クラブの重要な柱となる事業なのか。温 cafe のスタッフが兼務出来ないだろうか(川又理事から)

→まずは会費収入の増加と「達人」の募集や新しい仕組みづくりを行いながら協議したい。もちろん、温 cafe のスタッフの兼務も検討したい。(藤原理事長)

⑦ 諸連絡など

○会費の徴収、催促について

正会員 12 人、準会員 8 人の今年度会費が未収。メールでの打診と集金を徹底すること。

○温 cafe 試食会 9 月 21 日(火)夜に開催

○飯坂温泉観光協会からの「質問状」

○チャチャチャ 21 のモニターツアー 10 月 24 日～25 日(日月)への協力

「松尾芭蕉」をテーマに実施。宿泊は「ほりえや」「なかや」に分散。

○うつくしま育樹会 11 月 13 日(土)川内村で開催←参加社の確認

<決議>

「温 cafe 開店 1 周年記念「ロコミ投稿」募集中(9 月 20 日～10 月 19 日?)」は実施してもいいか。(川又理事)→異議なし

以上

平成 22 年 9 月 14 日

特定非営利活動法人いざかサポーターズクラブ

議長 印

議事署名人 印

議事署名人 印